

HPVワクチン接種後に多様な症状を生じた患者のうち 治療効果のあった症例の報告 (概要)

慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
研究代表者: 牛田 享宏 愛知医科大学学際的痛みセンター教授

HPVワクチン接種後に多様な症状を生じた患者に対する対応 — 本日の事例概要 —

HPVワクチン接種後に症状が生じて牛田班所属医療機関を受診した方で、症状の軽快が得られたケースについて、診察した医師から症状、経過、診療方針、転帰等について報告。

【診療方針】

- ・ 患者、家族への十分な説明と指導: ワクチン接種と症状との因果関係を追及するのではなく、生活パターンの改善・体づくりが必須であることや 日常生活のリズムを整えて、痛みがあってもできることを増やしていくことを指導
- ・ 学校生活の継続を第一に、部活も含め普通に動かすことを推奨
- ・ 症状に応じて投薬やその他の治療も併せて行うが、治療による副作用など長期的影響などを考慮してより侵襲性の少ない方法を補助的な治療手段として進める
- ・ 必要に応じて診療チームが集学的な連携を行って診療にあたる

【3名の方の概要】

- ・ 接種から発症までの期間 : 接種直後～接種後約1ヵ月
- ・ 発症から牛田班所属医療機関を受診するまでの期間: 約9ヵ月～約3年
- ・ 牛田班所属医療機関の初診後軽快※までの期間: 約半年～約9ヵ月
- ・ 事例概要

- A 耳鳴り、嘔気、頭痛、まぶしさ、立ちくらみ、起床困難、食欲低下 等により通学できない時期があった。
B 両肩、股関節、膝関節等の痛み等あり。
C 食欲低下、腹痛、思考力の低下、音過敏、後頸部の痛み、倦怠感、動悸、不眠 等により通学できない時期があった。

※「軽快の判断基準: 初診時と比べて、
・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがありながらも毎日学校に行けるようになった、
・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとうまくつきあえるようになった
等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

HPVワクチン接種後の多様な症状に対する牛田班での 認知行動療法的な考え方を取り入れた集学的診療(治療)について

1. 集学的な診療とは、

各専門の医師、看護師、理学療法士、臨床心理士などがカンファレンスなどを通じて密に連携して必要に応じて多角的に専門的なアプローチを駆使して行うチーム医療。

難治性慢性痛で体の障害を来している患者さんに対しては、いろいろな専門家が病態を分析し、連携して単一の治療手段にこだわらず複数の治療手段を使うなどし解決を目指す。

2. 認知行動療法的アプローチとは、

慢性痛の原因(身体)に対する治療に加え、慢性痛と心理社会的要因は相互に作用していることから開発された治療アプローチ。

認知行動療法の考え方を参考にしているが、うつ病で用いられている認知行動療法とは異なる。

当研究班においては原因にこだわらず、物事の受け取り方や考え方である「認知」に働きかけて物事の捉え方を改善し、身体づくりを行いつつ日常生活でできることを増やしていくことを目指すものである。しばしば必要な投薬による治療など他の手段も併用する。

(参考)

慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究班(牛田班)

—慢性の痛みとHPVワクチン接種後の痛みについての対応—

敬称略

牛田班所属医療機関 及び 対応者

- | | |
|----------------------|------------------|
| ● 愛知医科大学病院 | 牛田享宏 ほか |
| ● 札幌医科大学付属病院 | 山下敏彦, 村上孝徳 |
| ● 山形済生病院 | 伊藤友一 |
| ● 福島県立医科大学付属病院 | 矢吹省司 ほか |
| ● 獨協医科大学病院 | 山口重樹, 木村嘉之 |
| ● 東京慈恵会医科大学付属病院 | 八反丸善康 ほか |
| ● 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 井関雅子 ほか |
| ● 日本大学医学部附属板橋病院 | 加藤実 |
| ● 慶應義塾大学病院 | 小杉志都子 |
| ● 横浜国立大学附属市民総合医療センター | 北原雅樹 |
| ● 新潟大学医歯学総合病院 | 木村慎二 |
| ● 富山大学附属病院 | 川口善治 |
| ● 名古屋市立大学病院 | 杉浦健之 |
| ● 三重大学病院 | 笠井裕一 |
| ● 滋賀医科大学附属病院 | 福井聖 ほか |
| ● 大阪大学医学部付属病院 | 柴田政彦 |
| ● 岡山大学病院 | 西田圭一郎, 鉄永倫子 |
| ● 山口大学医学部附属病院 | 田口敏彦, 鈴木秀典 ほか |
| ● 愛媛大学医学部附属病院 | 檜垣暢宏 |
| ● 高知大学医学部附属病院 | 川崎元敬 ほか |
| ● 九州大学病院 | 細井昌子, 塩川浩輝 |
| ● 佐賀大学医学部附属病院 | 門司晃, 平川奈緒美, 園畑素樹 |
| ● 千葉大学 | 大鳥精司 |

牛田班所属医療機関の連絡先等の詳細は
以下厚生労働省ホームページ参照
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/dl/medical_institution.pdf

HPVワクチン接種後の症状に対する認知行動療法的アプローチの効果について

厚生労働科学研究事業 慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究班
 (研究代表者:愛知医科大学 牛田享宏)所属医療機関における集計(平成28年11月末現在)

HPVワクチン接種の関与の可能性が否定出来ない症例(n=244)

受診したもの	フォロー出来たもの	フォロー出来たもの156名の内訳		
		痛みが消失又は軽快※	痛み不変	痛み悪化
244	156 (63.9%)	115 (73.7%)	32 (20.5%)	9 (5.8%)

関節炎など他の要因が明らかであり

HPVワクチン接種が症状発症と無関係と考えられる症例(n=100)

受診したもの	フォロー出来たもの	フォロー出来たもの54名の内訳		
		痛みが消失又は軽快※	痛み不変	痛み悪化
100	54 (54.0%)	37 (68.5%)	14 (25.9%)	3 (5.6%)

※「軽快の判断基準: 初診時と比べて、
 ・ 痛みのため全く通学できなかったが、痛みがあれながらも毎日学校に行けるようになった。
 ・ 本人の主観として、痛みがよくなった、痛みはあるが痛みとつきあえるようになった
 等のケースであり、完全に痛みがなくなった、というものではない

認知
行動
療法

認知面へ
働きかける技法

身体・心理教育
認知再構成法
マインドフルネス

行動面へ
働きかける技法

リラクゼーション ストレスマネジメント
 行動活性化 ペーシング
 問題解決技法 自己主張訓練
 リハビリ・運動方法の習得と実践

土
台

適切な
医学的治療

病態説明と
身体心理教育

傾聴と
共感

患者主体
の治療

変化への
動機づけ

良好な信頼関係(ラポール)

